写真 6　コウモリの糞を乾燥させている様子

ちょうど朝に回収した糞を乾燥させていたので，その様子を見ることができた（写真 6）．強烈な臭いの中を，若い女性がせっせと手で糞を広げながら乾燥させていた．コウモリの糞は，大きいもので縦 1.5〜2 cm 横幅は 0.5 cm 未満であり，色は黒一色だ．この辺に生息するバットファームのコウモリの種類は *Scotophilus kuhlii* だとイス先生に教えて頂いた．この家族は，皆活き活きとした笑顔に溢れていて，バットファームを生業として続けていく意思が強いことが印象的だった．

さて，このように興味深いバットファームであったが，最終的に私はこれ以上の研究をすることはできなかった．これらの地域は治安に問題があり，相談した先生方から止めた方が良いというアドバイスを受け，調査許可の取得も難しいと指摘されたのである．しかし，カンボジアで有機農業が盛んになってきた今，バットファームはコウモリの保全と合わせて注目に値する存在である．これからも地域にその伝統が受け継がれていくことを願っている．

引　用　文　献

Cedar Farm Corporation Ltd.〈http://www.cedar-farm.com/about/〉（2014 年 11 月 14 日）

Chhay Sokmanine. 2012. Cambodian Bat Farms: A Review of Farming Practices and Economic Value of Lesser Asiatic Yellow House Bat, *Scotophilus kuhlii* (Leach, 1821), in Kandal and Takeo Provinces, Cambodia. (M.A. Thesis submitted to Royal University of Phnom Penh)

断念した調査

──モザンビーク中北部の伝統的権威に迫る危険──

松　井　　梓 *

晴れた日の朝

2016 年 10 月 19 日の朝．モザンビーク北部のナンプラ州は乾季真っ只中の快晴．ついに自分用のヘルメットを購入し（それまでは

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

郡[1] の日本びいきの農業局の方からいつも拝借していた），意気揚々とバイクタクシーの後ろに乗って，予備調査の結果数日前に自ら決めた調査対象の集落へ向かった．今週末から約 3ヵ月弱の間，集落のリーダーの家に泊めてほしいとお願いをするためだった．調査対象集落が含まれるローカリダーデ（localidade）N の役場に着いてみると，ローカリダーデ長（chefe de localidade）以下の行政官らが会議を開いていた．すでに何度か会っていたローカリダーデ長が会議に招き入れてくれ，私が地域の伝統的権威ムエネ（*mwene*）の家に泊まりたい旨を告げると，その場で皆さんが快諾してくれた．モザンビーク北部に居住するマクア人社会のムエネとは，同一血縁集団の構成員で形成されている集落を代表する伝統的権威であり，この地域では集落長（chefe de povoação）も担っている．ローカリダーデ役場の事務の女性と一緒に週末にマットレスを町まで買いに行く約束をし，緊張と興奮に不安が入り混じった気持ちで滞在拠点にしていた町まで戻った．

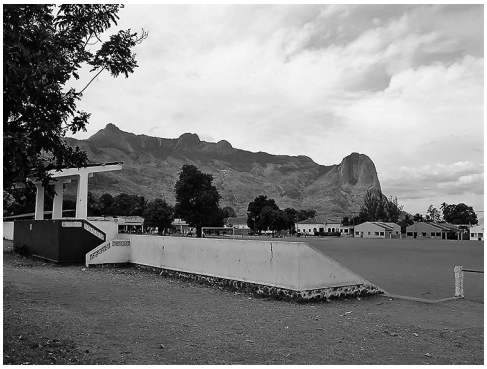

写真 1　リパウエ郡都の象徴ンパルエ山

その後滞在先のゲストハウスに到着し，注文してからなかなか来ない昼食を待ちながら，習慣となっていたモザンビークに関するニュースを専用に扱うウェブサイトのチェックを始めた．そこに不穏なタイトルがあった．記事を読み進め，出てくる地名を地図やインターネットで調べ，手が震えだした．手の震えの原因は，この日行ってきた集落の近くで，前日に野党レナモの党員 2 名が何者かに殺害されたというニュースだった．はっきりとした事件現場は分からないが，私がその日通った道のどこかである可能性も十分にあった．

モザンビークの国レベル・地域レベルの政治状況

ここで，現在のモザンビークの政治対立構造を理解するため，独立後から今日までの政治状況を概説する．モザンビークの現与党で独立戦争で植民地政府と戦ったフレリモ（FRELIMO：Frente de Libertação de Moçambique，モザンビーク解放戦線）と野党第一党のレナモ（RENAMO：Resistência Nacional Moçambicana，モザンビーク民族抵抗運動）は独立後の内戦（1977 年～1992 年）において対立した後，1992 年に和平合

1）モザンビークの農村部の行政区分は，国以下，州（província）―郡（distrito）―行政ポスト（posto administrativo）―ローカリダーデ（localidade）―集落（povoação）―コミュニダーデ（comunidade）と分類される．ローカリダーデまではフレリモ党員が行政長に配置されているが集落及びコミュニダーデの長は選挙によって選出され必ずしもフレリモ支持者ではない．

写真 2　ローカリダーデ役場からの景色

写真 3　調査対象集落

意に調印した．フレリモは 1994 年の第 1 回国政選挙から現在まで政権を握り続けているが，現在までの 5 回の選挙で必ずしも毎回圧勝しているわけではなく，レナモもその得票が多いときには 3 割超の票を得ている．地域的にみると，特にレナモ成立の経緯から関わりが深いモザンビーク中部や筆者の調査対象地であるナンプラ州を含めたモザンビーク北部はレナモ支持率が高い地域である．

継続的に複数政党による選挙が実施され，紛争後平和構築の成功例とも評価されたモザンビークであるが，常に政情が安定しているわけではない．上述の各回の国政選挙や地方選挙において選挙管理委員会がフレリモに優位な組織であり，その選挙結果に不正があったとレナモは主張し，これらを巡って両政党は対立してきた．特に 2013 年に発生した中部のソファラ州におけるレナモ武装集団による国防軍施設への攻撃以降，レナモが 1992 年の和平合意を放棄するなど両党の対立姿勢は強まった．これを契機に，レナモ党首であるデュラカマが拠点を置くソファラ州のほかマニカ州，ザンベジア州を含む中部地域を中心に，両党間の対立に関連した小規模な襲撃が散発的に発生した．レナモによる，警察や医療機関，道路を移動する車や石炭貨物列車などへの攻撃が相次いだ一方で，レナモの役職者が何者かに殺害される事件やレナモの党事務所が襲撃される事件も中部を中心に発生している．そしてこれらの攻撃が，2016 年に入ってから北部のナンプラ州の主に農村部でも時折みられるようになっていた．

このような背景のもと，私の調査地の周辺でレナモ党員の殺害事件が起こった．もちろん，これがフレリモによるものという証拠はなかったが，事件後相談にのって頂いた農業局員も，現地の友人も，そして私自身もその可能性は高いと感じていた．真実がどうあれ，党員を殺害されたレナモによるフレリモ側の立場の人々への報復が起こる可能性があった．そしてその報復攻撃は，フレリモ党の役職者や議会の議員など外部からみて明白に党を代表している人物だけでなく，私が対象としていたローカリダーデや集落の内部の「フレリモ側の」伝統的権威やリーダーを標的に起こる可能性もあると私は考えていた．

レナモによる攻撃対象となる地域の伝統的権威やリーダーたち

フレリモ・レナモ相互の間での攻撃が発生していた一方で，モザンビーク中部では地域の伝統的権威やリーダーらがレナモによって攻撃される事件が起きていた．マクア人社会の伝統的権威は，集団が危機に瀕した際の移動の決定や人々の間の争い事の裁定などに大きな役割を有し，地域社会に影響力をもってきた．その人々への影響の大きさから，植民地政府は伝統的権威らを行政機構の末端に位置付け役職を与えた．独立後のフレリモ政権は，伝統的権威らが親植民地政府的であったとして彼らを周縁化し行政から排除し，それをみたレナモは権威らに接近し自陣に取り込んでいった．しかしその後フレリモは，国政選挙におけるレナモの得票の多さを目の当たりにして特に農村部において伝統的権威を味方につける必要性を痛感した．フレリモ政権は，2000 年に地方行政の担い手として「共同体権威」なるカテゴリーを設置し，地方行政官やフレリモ党役員などと合わせて，伝統的権威を「共同体権威」の一画に位置付けた．こうして伝統的権威らは，フレリモとレナモ双方による奪い合いに巻き込まれていく．

上述のとおり，これまですでにモザンビーク中部では，農村地域内の伝統的権威や集落・コミュニダーデのリーダーらがレナモの攻撃の標的となる事件が多数発生していた．報道によればレナモは伝統的権威や地域のリーダーらを攻撃のターゲットのひとつとして位置付けており，その動機は「伝統的権威やリーダーらの権威を弱めるため」とされていた．しかしながら伝統的権威やリーダーらの中にはフレリモ支持者・レナモ支持者双方が存在しており，レナモがレナモ支持のリーダーらに対し攻撃や殺害を行なうとは考えづらい．ニュース記事や報道でレナモの伝統的権威・リーダーらの殺害の動機として語られる「彼らの権威を弱めるため」という言葉の裏には，フレリモ支持の伝統的権威を排除するという意図や，レナモ側の権威であったにもかかわらず 2000 年以降フレリモによって「共同体権威」として行政機構の末端に取り入れられ，給与の支給などの恩恵を受けたことにより親フレリモ化している伝統的権威らを粛清する意図があると考えられる．すなわちレナモによる伝統的権威やリーダーらへの攻撃は，報道にあるように単に伝統的権威の地域住民への影響力を恐れそれを弱めるために行なわれたわけではなく，その影響力の大きさ故に地域の伝統的権威やリーダーを自陣に取り込みたいレナモが，こちら側につかなければもはや安全ではないと彼らを脅迫する意図をもって行なったのではないだろうか．

断念した調査

調査対象地域では，ローカリダーデに複数名の伝統的権威やリーダーらがいた．一般的にこれらの「共同体権威」に就任する人々のうちフレリモ側の者とレナモ側の者の関係は悪く，レナモ側の者が会議から排除されるケースもあるという．しかし調査対象のローカリダーデではこのような傾向はみられず，伝統的権威や選出されたその他のリーダーらがフレリモ党員であるローカリダーデ長とも

良好な関係を築いていた．また，調査対象集落が位置する郡自体がナンプラ州の中でもフレリモ支持が強い地域であった．これらのことから，私はこの地域の権威らはフレリモ側の人たちであると踏んでいた．[2] 彼らに対する攻撃の可能性が考えられる中，レナモ党員殺害事件の直後にこの地域に滞在するのは危険であると考えて，悔いは大きかったが調査地を都市部に切り替えることにした．事件の3日後に逃げるようにして滞在拠点の町を離れたが，始めたばかりの調査を投げ出しての退避は，後ろ髪を引かれるような苦い思いがした．

国レベルの政治対立は地域の内部にも不安定さを生んでおり，それは集落のレベルまで及んでいた．これにより，ローカリダーデNにおける私の調査は続行が困難となってしまったが，近い将来この地を再訪し，再び伝統的権威やリーダーらに話を伺うことができることを切に願っている．[3]

2）彼らがフレリモ側かレナモ側かを直接尋ねることはあまりにもセンシティブな質問であり，尋ねることはしなかった．

3）この後2016年末に両党党首の電話会談で2週間の停戦合意が結ばれ，その後期限付きの停戦合意が複数回延長された．2017年5月4日に無期限の停戦が宣言され，現在目立った攻撃や衝突はみられない．